

平成 29 年度中間評価



広島県立黒瀬高等学校

目 次

- 1 平成 29 年度自己評価シート（中間評価）様式 3 1 頁
- 2 平成 29 年度自己評価シート（中間評価まとめ）様式 4 . . . 5 頁
- 3 平成 29 年度学校関係者評価シート（中間評価）様式 7 . . . 7 頁

平成29年度自己評価シート(中間評価)

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する					
生徒が自律的規範意識を身につけるように取り組む	(1)年間皆勤人数 (100人)	A	9月末までで109名が皆勤である。	生徒指導部	
	(2)年間退学者数 (3人)	A	9月末までで1名である。	生徒指導部	

【評価結果の分析】

(1)について

9月末の時点で、1年36名(37.5%)、2年33名(35.4%)、3年40名(40.8%)となっている。2年生で、昨年度皆勤であった者の83%が今年度も皆勤である。3年生で、昨年度皆勤であった者の100%が今年度も皆勤である。

(2)について

3年生が9月に1名退学した。それ以外では、進路変更によって転学した生徒が2名いる。

【今後の改善方策】

(1)について

全校集会やHR活動を通じて、生徒会を巻き込んで、積極的な活動を展開していく。

(2)について

個に応じたきめ細かい指導を続けていく。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する					
生徒の基礎学力を向上させる	(1)広島県高等学校等学力調査3教科正答率 70%以上の生徒の割合 (1年:国 35%, 数 44%, 英 20% 2年:国 40%, 数 27%, 英 20%)	未	広島県高等学校学力調査が11/16(木)実施なので、データがないため	教務部	
	(2)平日家庭学習時間の向上 (1年2h 2年2h 3年2h)	C	1年 1.1h, 2年 1.0h, 3年 1.4hであった。	教務部・進路指導部学年	
進路希望を実現させる	(3)1年生3級以上資格取得者割合 (75%) 2年生3級以上資格取得者割合 (75%) 3年生3級以上資格取得者割合 (80%)	C	1年 9.4%, 2年 46.3%, 3年 79.4%であった。	進路指導部	
福祉科生徒の介護職員初任者研修を確実に履修させ、進路希望を実現させる。	(4)3年生全員の介護職員初任者研修修了 (100%)	A	2年時3月に全員合格し研修を終了した。卒業時に修了証授与となる。	福祉科	
	(5)総合福祉類型者は2年生で3級3つ以上の資格(サービス接遇3級・調理3級・漢字3級等)取得させる。(85%)	未	検定が11月以降に実施される。検定日に向け学習指導を行っている。	福祉科	
	(6)介護福祉士類型者の介護福祉士国家試験合格への力をつける (国家試験合格 100%)	B	3年生8月の国家試験模試(基礎編)で、正答率平均は65%であった。(国試合格基準60%)	福祉科	

【評価結果の分析】

(1)について

データが出た後に分析する。

(2)について

頑張っている生徒もいるが、家庭学習の習慣がついていない生徒についての指導が不十分である。

(3)について

資格取得に対するモチベーションを上げることを各教科で工夫できていなかった。1年生に関しては、例年これから増えてくる傾向にある。しかし、全体的に、情報系の資格取得率が下がっている。

(4)について

介護職員初任者研修は1年生2学期から2年生2学期まで続き、結果時間は補充を入れ、筆記(科目と総合)と実技試験を合格しなけ

ればならない。このことを生徒・保護者に周知し、取り組みへの指導を継続して行っている。試験に合格するための学習や練習に取り組みませ、追試も繰り返し行い、2年終了時には全員認定ができた。

(5)について

2年生の総合福祉類型は12人で、現在実用数学技能検定3級(4人)、ワープロ検定取得は3級(7人)準2級(3人)2級(1人)、文書デザイン検定3級(3人)である。検定が11月以降に実施されるため、集計は後日となる。サービス接遇検定(11/4受験)、社会福祉・介護福祉検定(12/13受験)で検定結果は1月まで分からない。

(6)について

介護福祉士国家試験模試(業者)を8月末に行い、得点率平均65.0%、最高76.0%、最低58.4%であった。

【今後の改善方針】

(1)について

データ分析後に方策を立てる。

(2)について

各教科の授業で、小テストを実施することで、家庭での学習時間を増加させる。

(3)について

社会や企業は、自分を高める努力をし続けることができる人材を求めていることを理解させるとともに、学年会、担任、各教科と連携を強化し、資格試験へ挑戦する生徒を増加させる。

(4)について

2年生の修了テストに向け、計画し指導している。

(5)について

様々な検定に申込みを行い、それぞれの内容への強化指導を行っている。

(6)について

福祉科目の履修内容がすべて終了していないため、国家試験問題集等を使って自主学習や課題学習をさらに進める。国家対策を9月から開始し、様々な対策を指導していく。

3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する				
生徒が部の活動に誇りを持ち、主体的、計画的に部活動を行う。	(1)部活動加入率 (85%)	A	全体 89.5% 1年 99.0%, 2年 92.5%, 3年 77.6%	特別活動部
	(2)部活動単位で挨拶運動や美化作業をおこなう日数を増やす。(挨拶 70日 美化 15日)	B	挨拶 30日 美化 6日 (ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、卓球、放送、和太鼓)	特別活動部
生徒会中心の自主的活動の機会を増やす。	(3)集会や放送により、生徒会執行部が全校生徒に対して話をする機会を増やす。(12回)	B	全校集会等で、文化委員1回、保健委員3回、文化委員1回、体育委員1回、美化委員1回の計6回である。放課後掃除の放送はほぼ毎日実施している。	特別活動部
豊田高校との学校間連携に係る教育内容を充実させる。	(4)行事や部活動へ参加した生徒の満足度 (98%)	A	文化祭交流での聞き取りでは、参加生徒の全員が満足と回答した。	全教科・分掌特別活動部
海外姉妹校との生徒交流を実現する。	(5)手紙等による近況報告を年に1回以上行い、HPにその取組を掲載する。(7回)	C	近況報告は0回。(PTA新聞には4月の交流についての記事を掲載してもらいました。)	特別活動部

【評価結果の分析】

(1)について

1年生対象の部活動紹介及び部活動見学・体験を実施し、各学期初めに部活動総会により、入退部の確認をすると同時に部活動に対する意識付けを行った。2・3年の加入率の維持と、1年生の1学期全員入部の取組から2学期にかけて退部する生徒が少なく、2学期も90%近い高い入部率となった。今後も引き続き全校集会での表彰、HPへの掲載による部活動の紹介等を行い、入部率と結果の好循環が生まれるようにしたい。

(2)について

年度当初の部長会で、挨拶運動及び美化作業の年間計画を作成し実施している。挨拶運動・美化活動ともに各部長が担当月を意識しており、計画通り順調に行うことができた。更に、日常的に草取り等を実施しているクラブもあり、自主的活動になりつつある。

(3)について

集会ごとに執行部が講話をするようにしており、HR委員については行事における委員会単位での活動機会を設定することで、クラスの代表としての自覚を促すよう取り組んでいる。

(4)について

両校の文化祭をお互いが訪問することにより、自校の取組を客観的に評価し今後の参考にしようとする感想などが見られた。茶華道部の交流

において、異なる流派の茶道を体験することで、自分達の部活動のあり方なども振り返る機会となり、また広い視野を養うことができた。

(5)について

昨年度末に生徒会執行部からメールを送り、返答を待っている。

【今後の改善方策】

(1)について

引き続き部活動に関する広報活動等を行い、試合が少ない時期も生徒のモチベーションが下がらない工夫を図る。また、各部で声掛けを行ったり、学習との両立や保護者の理解を得るための活動等を積極的に行い、登録部員全員が積極的に活動していく環境づくりと退部しない取組を進めていく必要がある。

(2)について

年度末まで計画どおり顧問や各部長と連携をとりながら進める。

(3)について

生徒会のリーダーとしての意識を高めるよう週1回の執行部会を充実させ、執行部同士のコミュニケーションを密にする。

(4)について

連携行事の前に教員・執行部レベルでの十分な打ち合わせを行い、より生徒に還元できる内容を創造する。

(5)について

2月にメール送信(返事待ち)しており、英語科の授業で手紙の作成等の取組みを行っているので、継続的に働きかけていく。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う				
広報活動を充実させるとともに、中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	(1)オープンスクール参加生徒で本校を受検したい生徒の割合 (80%)	B	普通科 73%, 福祉科 90%の回答を得たため。	総務部・福祉科
	(2)校内の行事の様子や生徒の声をホームページに掲載する (20回)	B	校内の行事は随時アップし、生徒の声はブログに反映させている。	総務部
	(3)ホームページの閲覧者数 (年間 15,000人)	A	9月末現在, 12,000人を超えており, 達成の見込みである。	総務部
地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	(4)普通科生徒のボランティア活動参加者を増やす。(延べ100人)	C	延べ26人参加	特別活動部
	(5)福祉科の学習でのボランティアや地域活動貢献回数と参加者数 (延べ140人以上)	C	10月末の時点でボランティアは, 9回, 延べ78名である。12月にクリスマス会に15名程度参加予定である。	福祉科

【評価結果の分析】

(1)について

オープンスクールの参加した中学生へのアンケートの結果、普通科 73%、福祉科 90%の回答を得た。普通科が目標値よりやや下回り、福祉科は上回った。

(2)について

行事の様子6回と学校便り3回、他昨年度の進路状況や部活動の様子をホームページに掲載した。また、日々の学校の様子を毎日更新している。行事と黒高だよりのアップが一部遅れている。

(3)について

日々の閲覧数は50~80程度で、4月から現在までに約14,000回近い閲覧があり、目標値を上回るペースである。

(4)について

「黒高レンジャー」が「ボランティア同好会」として3年目を迎え、校内の身近なボランティアに取り組むとともに、地域ボランティアに積極的に参加していくよう取り組むことで自己肯定感を高めているものと思われる。しかしながら人数的には昨年度より減少している。

(5)について

ボランティア参加は10月30日までで、9回、延べ78名であった。参加した生徒の行動・態度を評価していただき、地域等から多くの参加を求められている。しかし、今年度はボランティアの日程が学校行事と重なるなど都合が合わず、案内回数が減少したことと1年生の参加率が低いことが参加数の減少につながっている。

【今後の改善方策】

(1)について

来年度へ向けてオープンスクールの内容の充実を図っていく。

(2)について

タイムリーに校内の様子や行事、部活動の様子などをアップできるよう、部内のチェック体制を再整備すること。また中学生やその保護者が知り

たいであろうと思われる情報を掲載できるよう、各分掌・学年会と連携を図ること。

(3)について

(2)とも関連するが、行事などをタイムリーにアップしていくこと。そして本校生徒や保護者等の関係者が本校に誇りを持ち、かつ地域に対しPRとなるような内容をしていく。

(4)について

ボランティア同好会員への呼びかけとともに、個別に生徒への声かけをより積極的に行い、誰でも気軽に参加しやすい体制を作るよう取り組む。また活動している生徒に目を配り声をかけることで、更なるやる気を促す。

(5) について

福祉科全体で進めていき、ボランティアへの意欲付けをしていく。地域レンジャーからの募集は、連携をして積極的に生徒に案内していく。

平成 29 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	044	学校名	黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全日制	本校
----	-----	-----	--------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する

- (1)9月末の時点で、1年 36名(37.5%)、2年 33名(35.4%)、3年 40名(40.8%)となっている。2年生で、昨年度皆勤であった者の83%が今年度も皆勤である。3年生で、昨年度皆勤であった者の100%が今年度も皆勤である。
- (2)3年生が9月に1名退学した。それ以外では、進路変更によって転学した生徒が2名いる。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する

- (1)データが出た後に分析する。
- (2)頑張っている生徒もいるが、家庭学習の習慣がついていない生徒についての指導が不十分である。
- (3)資格取得に対するモチベーションを上げることを各教科で工夫できていなかった。1年生に関しては、例年これから増えてくる傾向にある。しかし、全体的に、情報系の資格取得率が下がっている。
- (4)介護職員初任者研修は1年生2学期から2年生2学期まで続き、結果時間は補充を入れ、筆記(科目と総合)と実技試験を合格しなければならない。このことを生徒・保護者に周知し、取り組みへの指導を継続して行っている。試験に合格するための学習や練習に取り組ませ、追試も繰り返し行い、2年終了時には全員認定ができた。
- (5)2年生の総合福祉類型は12人で、現在実用数学技能検定3級(4人)、ワープロ検定取得は3級(7人)準2級(3人)2級(1人)、文書デザイン検定3級(3人)である。検定が11月以降に実施されるため、集計は後日となる。サービス接遇検定(11/4受験)、社会福祉・介護福祉検定(12/13受験)で検定結果は1月まで分からない。
- (6)介護福祉士国家試験模試(業者)を8月末に行い、得点率平均65.0%、最高76.0%、最低58.4%であった。

3 「元氣な声が聞こえる学校」づくりを推進する

- (1)1年生対象の部活動紹介及び部活動見学・体験を実施し、各学期初めに部活動総会により、入退部の確認をすると同時に部活動に対する意識付けを行った。2・3年の加入率の維持と、1年生の1学期全員入部の取組から2学期にかけて退部する生徒が少なく、2学期も90%近い高い入部率となった。今後も引き続き全校集会での表彰、HPへの掲載による部活動の紹介等を行い、入部率と結果の好循環が生まれるようにしたい。
- (2)年度当初の部長会で、挨拶運動及び美化作業の年間計画を作成し実施している。挨拶運動・美化活動ともに各部長が担当月を意識しており、計画通り順調に行うことができた。更に、日常的に草取り等を実施しているクラブもあり、自主的活動になりつつある。
- (3)集会ごとに執行部が講話をするようにしており、HR委員については行事における委員会単位での活動機会を設定することで、クラスの代表としての自覚を促すよう取り組んでいる。
- (4)両校の文化祭をお互いが訪問することにより、自校の取組を客観的に評価し今後の参考にしようとする感想などが見られた。茶華道部の交流において、異なる流派の茶道を体験することで、自分達の部活動のあり方なども振り返る機会となり、また広い視野を養うことができた。
- (5)昨年度末に生徒会執行部からメールを送り、返答を待っている。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う

- (1) オープンスクールの参加した中学生へのアンケートの結果、普通科73%、福祉科90%の回答を得た。普通科が目標値よりやや下回り、福祉科は上回った。
- (2)行事の様子6回と学校便り3回、他昨年度の進路状況や部活動の様子をホームページに掲載した。また、日々の学校の様子を毎日更新している。行事と黒高だよりのアップが一部遅れている。
- (3)日々の閲覧数は50~80程度で、4月から現在までに約14,000回近い閲覧があり、目標値を上回るペースである。
- (4)「黒高レンジャー」が「ボランティア同好会」として3年目を迎え、校内の身近なボランティアに取り組むとともに、地域ボランティアに積極的に参加していくよう取り組むことで自己肯定感を高めているものと思われる。しかしながら人数的には昨年度より減少している。
- (5)ボランティア参加は10月30日までで、9回、延べ78名であった。参加した生徒の行動・態度を評価していただき、地域等から多くの参加を求められている。しかし、今年度はボランティアの日程が学校行事と重なるなど都合が合わず、案内回数が減少したことと1年生の参加率が低いことが参加数の減少につながっている。

2 今後の改善方策

1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する

- (1)全校集会やHR活動を通じて、生徒会を巻き込んで、積極的な活動を展開していく。
- (2)個に応じたきめ細かい指導を続けていく。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する

- (1)データ分析後に方策を立てる。

- (2)各教科の授業で、小テストを実施することで、家庭での学習時間を増加させる。
- (3)社会や企業は、自分を高める努力をし続けることができる人材を求めていることを理解させるとともに、学年会、担任、各教科と連携を強化し、資格試験へ挑戦する生徒を増加させる。
- (4)2年生の修了テストに向け、計画し指導している。
- (5)様々な検定に申込みを行い、それぞれの内容への強化指導を行っている。
- (6)福祉科目の履修内容がすべて終了していないため、国家試験問題集等を使って自主学習や課題学習をさらに進める。国家対策を9月から開始し、様々な対策を指導していく。

3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する

- (1)引き続き部活動に関する広報活動等を行い、試合が少ない時期も生徒のモチベーションが下がらない工夫を図る。また、各部で声掛けを行ったり、学習との両立や保護者の理解を得るための活動等を積極的に行い、登録部員全員が積極的に活動していく環境づくりと退部しない取組を進めていく必要がある。
- (2)年度末まで計画どおり顧問や各部長と連携をとりながら進める。
- (3)生徒会のリーダーとしての意識を高めるよう週1回の執行部会を充実させ、執行部同士のコミュニケーションを密にする。
- (4)連携行事の前に教員・執行部レベルでの十分な打ち合わせを行い、より生徒に還元できる内容を創造する。
- (5)2月にメール送信(返事待ち)しており、英語科の授業で手紙の作成等の取組みを行っているので、継続的に働きかけていく。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う

- (1)来年度へ向けてオープンスクールの内容の充実を図っていく。
- (2)タイムリーに校内の様子や行事、部活動の様子などをアップできるよう、部内のチェック体制を再整備すること。また中学生やその保護者が知りたいであろうと思われる情報を掲載できるよう、各分掌・学年会と連携を図ること。
- (3)(2)とも関連するが、行事などをタイムリーにアップしていくこと。そして本校生徒や保護者等の関係者が本校に誇りを持ち、かつ地域に対しPRとなるような内容をしていく。
- (4)ボランティア同好会員への呼びかけとともに、個別に生徒への声かけをより積極的に行い、誰でも気軽に参加しやすい体制を作るよう取り組む。また活動している生徒に目を配り声をかけることで、更なるやる気を促す。
- (5)福祉科全体で進めていき、ボランティアへの意欲付けをしていく。地域レンジャーからの募集は、連携をして積極的に生徒に案内していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 来年度の創立 70 周年記念式典に向けて生徒会を中心とした様々な活動をより活性化し、自律的規範意識の醸成を積極的に展開していく。
- ほとんどの生徒は落ち着いて学校生活を送っている。心の問題を抱えた生徒に対する組織的な早期対応を、よりきめ細やかに行う。
- 各教科の授業において小テスト等を実施することで、家庭での学習時間を増加させる。
- 進路目標を達成するための個別指導(チューター制)や年間の取組は組織的に行われているが、普通科と福祉科の連携をより深める。
- タイムリーな情報発信をさらに進めていく。
- ボランティア同好会員への呼びかけとともに、個別に生徒への声かけをより積極的に行い、誰でも気軽に参加しやすい体制を作るよう取り組む。また活動している生徒に目を配り声をかけることで、更なるやる気を促すなどボランティア活動を充実させて黒瀬高校の魅力を中学校や地域に発信させる。
- 部への加入率は高いが、部活動への参加率を高め、来年度に向けての技能の習得をより図る。

平成29年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 29 年 11 月 21 日

校番	044	学校名	黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全日制	本校
----	-----	-----	--------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間退学者数は家庭の事情、黒瀬高校 UNMATCH など自主的な退学は含まなくても良いのではないかと。あくまで規律が守れず、学校指導による退学者のみで良い。 ・部活加入率は100%でも良いと思う。実際にはクラブ活動をする事ができない生徒もいるとは思うが、所属する事で文化祭などでの役割などが出来、自主的な行動が出来るのではないかと。 ・1年生3級以上資格取得者割合は下げても良いと思う。高い目標値よりは意識付けの時期だと思うので、数字は下げるべきだと思う。 ・年間皆勤人数109名は評価に値する。 ・目標、指標、計画等の設定の適切さについては概ね適切であると思う。年間皆勤者数を目標と現状が接近しつつある。皆勤を意識する生徒は問題なし維持に汲々とする必要はない。 ・退学者は決して人数目標が先行しないようにしてほしい。関わりかたの結果だと思う。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進行管理は適切である。 ・計画が達成されるまでのルーチングを予め作成しておき、自然の流れの中でチェック・見直しをすることにより達成率を向上させることも必要だと思う。民間の製造業では製品の製造工程をルーチングシートに記述して中途での確認・見直しをしている。ルートの中で問題点などを記入し、集収して検討を行っているがこうしたことが活用できないか。PDCAサイクルの展開ができれば最高だと思う。 ・アルマス高校との交流は生徒の自然な発意で行われるように工夫してほしい。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目に沿った細やかな取り組みを行っている。 ・目標の設定自体が高すぎるため、達成されない項目がある。目標の設定を見直す必要がある。目標の設定から達成までの行程が仕組みされていないように思う。成り行きになってしまう。 ・計画が達成されるまでのルーチングを予め作成しておき、自然の流れの中でチェック・見直しをすることにより達成率を向上させることも必要だと思う。達成感の繰り返しが先生のキャパシティの拡大につながると思う。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動・美化活動さらに日常的に草取り等を実施している部活動がある。自分たちの学校を生徒自身できれいにする自主的な活動をしている。 ・校内行事の様子や生徒の声をホームページに掲載する、またホームページ閲覧者数の分析は更新が日々の閲覧者数を上げていることを示している。情報ごとの閲覧数もカウントし、分析できればと思う。 ・評価結果が悪くなると予測される場合の軌道修正の機会を逃してはならないと感じる。 ・アルマス高校との手紙による近況報告は生徒の意気軒高を示す大事なことだと思う。是非とも工夫を重ねて達成し、全生徒がアルマス高校ともっと身近になってほしい。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目に関する改善策は適切と判断する。 ・先に述べたルーチングシートの記述内容が活かえてくるのではないかと。先生の成長こそが生徒にとって最高の教育環境になるように思う。生徒の悩みを理解しようとする先生の姿勢が必要と思う。抜苦与楽の行動を期待する。 ・ボランティア活動などで黒瀬高校の生徒の露出を地域に広げてほしい。 ・18歳以上選挙権の制度改正に教師が全力で対応してほしい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・黒高の生徒は地域にとってなくてはならない人材である。ボランティア活動では深く根付いているものがある。 ・個人だけでなく、部活ごと、クラスごとのボランティア活動も充実させて黒瀬高校の魅力をもっと外に発信できたらと思う。そうすると、事前学習、対応方法の訓練などが大変になると思うが、社会に出ていく際の糧になり、社会とのかかわりが増えれば、自己肯定できる場所を増やしていけると思う。 ・「志と目標を高く持ち、主体的に学び、自ら行動する生徒」の実現に向けて熱心に取り組まれている。 ・総合評価としては年々良くなっていると思う。先生のご尽力のお陰だと思う。黒瀬高校の生徒を私の朝の交通安全の指導時に見かけるが挨拶・通学時の態度などは年々良くなっている。先生は生徒にとって最高の教育環境だと云われる。信頼感の醸成で最高の生徒を世に輩出してほしい。 ・アルマス高校との交流で生徒全体に黒瀬高校の自慢ができる雰囲気醸成されているように思う。保護者や地域にも広がるように工夫してほしい。先生のやる気が生徒に伝染する。花を愛する、花のある学校に育ててください。